

子供のための「理想の学校」～感性を活かすホリスティック教育～

ガラガラにっポン 原 暁美

主催：21世紀のライフスタイルを考える

ガラガラにっポン

日時：1997年5月24日（土） 14:00～17:00

場所：未定

講師：高橋史郎・明星大学教授

【企画の目的】

今、教育現場の抱えている様々な問題、いじめ、不登校、自殺、非行などは、戦後半世紀にわたる経済成長を目的として作られた「画一的に知識を詰め込み、知識の量だけで競争する。」という学校のシステムについてゆけない子ども達の叫びの様な気がしてなりません。

私たち親や教師は物質的な豊かさを手に入れることと引き替えに失ったものの大きさに一日も早く気づき、子ども達が本来の人間性を呼び戻し、幸せを実感できるような教育システムを作り、現代教育の病巣を完治させなければならないからです。

【企画の問題点】

一経験を通して育まれるもの一

生まれたばかりの赤ちゃんは、母親、父親の暖かい愛に包まれて、家庭という安全な場所で守られながら人間として最も大切な心を経験を通して身につけてゆきます。そして長い時間をかけていろいろなことを学び成人として自立してゆきます。学校で過ごす時間は、家庭で過ごす時間と同じくらい子どもの成長にとって大きな役割を果たすということを、教育現場の人々が自覚してくれなくては困ります。学校の価値は偏差値の高さではなく、世の中にどういう人間を送りだしたかで決まるのではないのでしょうか。

一大人は子どもの夢を奪ってはいけません一

子どもの目はキラキラと輝き、果てしない好奇心に満ちあふれています。そして、子どもはたくさんの夢を持っています。しかし、年齢と共に好奇心や夢が無くなり、「学校はつまらない」「生きていても楽しいことは何もない」と言う子供たちの声をよく耳にします。そして、後を絶たないいじめや自殺の報道を目にすると、本当に心が痛みます。私たち親や教師は子どもの夢を奪ってはいけません。学ぶ楽しさ、生きている素晴らしさを教えてあげる（実感させてあげる）のが勤めではないのでしょうか。

一心の底から湧き出る感動一

今の子ども達は偏差値教育で常に人と競争をし、

一番になることを求められる中で点数でしか自分を評価することが出来なくなってしまっています。親にも教師にもいい点を取ることでしか認められず、自分を心の内側から、かけがえのない自分として実感することが出来ず、何かで挫折すると非行や自殺に走ってしまいます。「自分は本当は何がしたいのか、一度きりの人生どう生きたいのか」を一人ひとりが明確にし、心の底から湧き出る感動を実感できるような教育の場が、いま求められているのではないのでしょうか。

親や教師が「自分が変わらなければ、子供も変わらないんだ」ということから始まる。「制度が変わらないことには変えられない」ではなく「一人ひとりの考えが変わることによって社会を変えてゆくのだ」という発想の転換が必要ではないのでしょうか。

【企画の効果】

21世紀のライフスタイルを考える・第3回 子どものための「理想の学校」では、第1部、高橋史郎氏の感性を活かすホリスティック教育の講演。第2部では現役の学生と現役の教師の討論形式で、今の教育への不満、理想の学校像など夢を語ってもらう。そして多くの教育に携わっている人々や子どもをもつ父親母親、教育改革に臨んでいる政治家にも生の声を聞いてもらい、一人でも多くの人々に気づいてもらって子供たちが夢を持ち続けられる学校、学ぶことが楽しいと実感できる学校を一日も早く実現できればと思っています。

今、このことに多くの人々が気づき始めている。教師も生徒も親達も、そして学校経営者や政治家も。

【高橋史郎氏略歴】

明星大学教授、ホリスティック教育クフォーラム代表、感性教育研究所所長。1950年兵庫県生れ。早稲田大学大学院修了後、スタンフォード大学フーバー研究所客員研究員。臨時教育審議会専門委員、国際学校研究委員会委員などを経て、現職。著書に「喜びはいじめを超える」「脱偏差値教育の試み」「悩める子供たちをどう救うか」「感性を生かすホリスティック教育」など多数。

【連絡先】

- ・梶原光恵 TEL 03-3482-7836 FAX 03-3482-7838
- ・原 暁美 TEL 03-3793-4288 FAX 03-5722-6033